



ケースから考える



# キャリアデザイン

## も く じ

|       |                   |   |
|-------|-------------------|---|
| 第 1 章 | 資格を取ること . . . . . | 1 |
|-------|-------------------|---|

～ 資格・免許・学歴 ～

|       |                 |    |
|-------|-----------------|----|
| 第 2 章 | 時代と仕事 . . . . . | 15 |
|-------|-----------------|----|

～ I T 化 ～

|       |                    |    |
|-------|--------------------|----|
| 第 3 章 | 仕事とフィールド . . . . . | 27 |
|-------|--------------------|----|

～ グローバル化 ～

|       |                 |    |
|-------|-----------------|----|
| 第 4 章 | 仕事と人生 . . . . . | 39 |
|-------|-----------------|----|

～ ワーク・ライフ・バランス ～

|       |                    |    |
|-------|--------------------|----|
| 第 5 章 | 雇われない生き方 . . . . . | 51 |
|-------|--------------------|----|

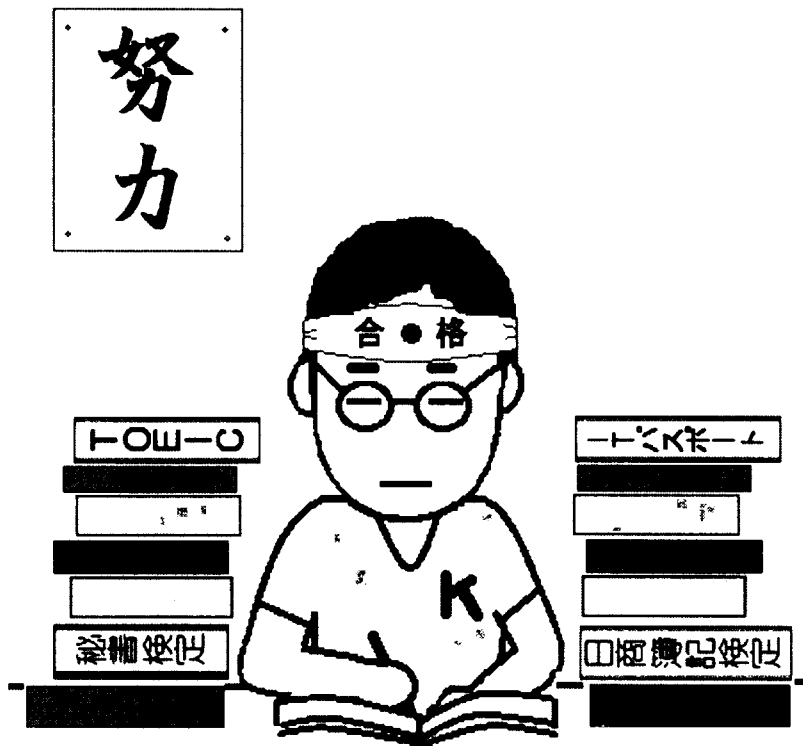
～ 起 業 ～

|      |                       |    |
|------|-----------------------|----|
| 巻末付録 | あなたもインタビュアー . . . . . | 63 |
|------|-----------------------|----|

～ 「働く人のケース」を書いてみましょう ～

## 第 1 章

# 資格を取ること ～ 資格・免許・学歴 ～



あなたはどんな資格を取りたいですか？世の中にはどんな資格があるのでしょ  
うか？資格は役に立つものでしょうか？資格を取ると就職に  
有利でしょうか？では、「就職のために資格を取る」のでしょうか…？  
結局、「資格を取る」ということは、どういうことなのでしょうか？

## 働く人のケース

### ビジネス資格の個人指導塾を経営するSさん（女性）

---

簿記やファイナンシャル・プランナーなどのビジネス資格の個人指導塾を経営しているSさん。受講生は主に中堅クラスの会社員、他にも？自営業の人や定年退職した人など様々。マンツーマンなので、受講目的もいろいろだそうですが大きく分けると①資格を取って就職・転職を成功させるため ②今の仕事を深く理解するため ③趣味またはライフワークとして…とのこと。10年以上通い続ける人も珍しくなく、年齢には関係なく「学び続ける人」は確実に存在しているようです。

Sさんがビジネス資格の個人指導塾を立ち上げたのは30歳のとき。自営業に憧れたというよりは、理想の職場が見つからなかったで自分で始めてしまったのだそうです。高校を卒業してすぐに就職。社会人デビューを果たしたものの、毎日が驚きの連続！結局のところ、世の中のしくみなんて、実際に世の中に出てみないとわからない…と感じたそうです。

もしも「3年先が見える鏡」があって、その鏡を高校生の頃に自分が見ていたら、絶対に最初から大学に進学していたとのこと。社会人5年目だったSさんは、仕事に自信が出てきて楽しかったにもかかわらず、退路を断って退職。当時は会計事務所勤務だったので、業務として勉強していた簿記や税務のことをもっと本格的に学び、職場の大卒の先輩たちがみんなそうであった（…と当時は思っていた？）ように、「何でも知ってる人」になるために、遅まきながら大学受験を決心。猛勉強の末に見事大学に合格！このときSさんは既に23歳。同級生には年齢のことは隠して学生生活を送ったそうです。そして念のため、また学歴のことで後悔しないようにと大学院（修士課程）にも進むことにしたそうです。

当時は、今のような社会人向けの大学入試制度が存在しなかった時代です。長いブランクからの大学受験、また、大学院への進学もさぞかし大変だったはず。さらに、受験のための費用はもちろん、大学入学後の学費や生活費も、すべて自分で払っていたそうです。



仕事を理解するために塾通い？



3年先が見える鏡見たいな♪



学歴で後悔することもあるのか…

## Sさんの略歴

18歳

23歳



30歳

現在

|              |          |     |               |                    |
|--------------|----------|-----|---------------|--------------------|
| (受付) 一般企業 経理 | 会計事務所 勤務 | 大 学 | 大学院<br>専門学校講師 | 個人指導塾経営<br>大学非常勤講師 |
|--------------|----------|-----|---------------|--------------------|

大学に入学したばかりの頃のSさんは、卒業後の進路はきっと前の仕事(会計事務所勤務)に戻るだろう…そのとき、税理士か会計士になって復帰すれば尚良し…と考えていました。けれども、大学に入ってすぐにわかったことは、「世の中には本当にいろいろな仕事がある」ということ。おそらく普通の大学生が知っている職業と言えは？「親や親戚がやっている職業」「幼稚園や学校の先生」「お医者さんか看護師さん」「運転手さん」「お店やさん」…Sさんの場合も、大学に入学したばかりの頃は、これらの職業に「税理士」と「会計士」が加わっただけだったそうです。



まだまだ知らない職業がたくさんあるってこと？

実際に大学で勉強するようになって初めて、職業とは「一言(ひとこと)で言える必要はない」と気がついたそうです。幼い子が「大きくなったら〇〇になりたい♪」と言うときの「〇〇」というカタチでなくても、今はまだ名前もない職業でも？自分が出来ることで誰かのお役に立つ。そのためには、自分が「好き」というよりも「得意」なことでがんばっていこう！それを仕事として継続していけば、肩書きなどは何でもいい…と。それが今のSさんの仕事である「ビジネス資格の個人指導塾」であることは言うまでもありません。



「好き」と「得意」は違うのか…

ところで、資格を取ったら就職出来るのでしょうか？簿記の資格を取ることで会社の経理がわかるようになるのでしょうか？Sさんに尋ねてみると「〇でもないし×でもない」とのこと。世の中にあるたくさんの資格や免許の中には、それがないと出来ない仕事も存在しますが、実は？大半の資格は「単なる結果」に過ぎません。



わかった♪  
〇×じゃなくて  
□(=資格)です！  
ふふっ

Sさんは、受講生の人たちには「合格」という目先の結果だけではなく「このスクールに来て本当に良かった」と心から思ってもらいたいとのこと。そのためには、Sさん自身もライフワークとして勉強をし続けていく必要があるそうです。どうやら「資格」そのものが大切というわけではないようです。

**ケースから考えてみましょう**

Q：あなたがSさんの20歳のときの友人だとしたら、どんなアドバイスをしてあげますか？

---

---

---

Q：Sさんにとって、辛いとか大変だった時期はいつだと思いますか？それはなぜですか？

---

---

---

Q：Sさんは、大学に行く前は「大卒の人は何でも知っている」と思っていたましたが、もし「高卒の人」と「大卒の人」に違いがあるとすればどんなことだと思いますか？

---

---

---

Q：なぜ、働きながら資格取得などの勉強に励む人が大勢いるのでしょうか？

---

---

---

Q：今のあなたは、どのような資格を取得したいと考えていますか？それはなぜですか？

---

---

---

Q：もし、Sさんに直接会って話しが出来るとしたら、何を聞きますか？

---

---

---

---

## 調べてみましょう

世の中にはどのような資格があるのでしょうか？

インターネットで調べると、資格に関する情報が整理されているホームページなども存在しています。また、資格に関するガイドブックみたいな本も、毎年出版されています。それらを見ると、1000種類を超える資格が紹介されているとのこと。ぜひ一度、その内容を確認してみることをお勧めします。

### 【設問 1】

あなたが興味を持った資格と、それに興味を持った理由をリストアップしてみましょう。

| 資格の名称 | 興味を持った理由 |
|-------|----------|
|       |          |
|       |          |
|       |          |
|       |          |
|       |          |
|       |          |

### 【設問 2】

あなたの周りの大人は、どのような資格を持っているのか？ヒアリングしてみてください。

| 資格の名称 | 取得した理由・良かったことなど |
|-------|-----------------|
|       |                 |
|       |                 |
|       |                 |
|       |                 |
|       |                 |
|       |                 |
|       |                 |

## 資格を取るということ

資格を取りさえすれば人生はバラ色…でしょうか？ちょっとそれは、あまりにも甘い考えですね。でも、世の中には「資格取得」に真剣に立ち向かっている人が数多くいます。なぜなのでしょう？

それを考える前に、「資格」について少し整理しておきましょう。

### 「資格」と「免許」の違い

まず「資格」と「免許」の違いについて確認しましょう。

#### ＜資格＞

- 1 あることを行うのに必要な、また、ふさわしい地位や立場。  
「理事の資格で出席する」
- 2 あることを行うために必要とされる条件。  
「税理士の資格を取る」

#### ＜免許＞

- 1 一般には禁止または制限されている行為を、行政官庁が  
特定の場合に特定の人だけに許すこと。許可。
- 2 師匠が弟子に、芸能や武術などの奥義を伝授すること。  
また、伝授したことを証して与える許し状。

（大辞林第3版より）

あなたが興味を持ったものは「資格」でしたか？「免許」でしたか？

日常では「資格」と「免許」の違いが、ハッキリとは区別されないで用いられるケースもあるかもしれません。また、法律用語としては別の意味合いもあるようです。しかし、私たちがキャリアデザインを考える上で必ず理解しておかなければならないのは、「資格」は「ある方が良いもの」であり、「免許」は「これが無いと（ブラックジャックではあるまいし）やってはいけない」…という点でしょう。

これらを理解した上で、あなたが興味を持ったものは「資格」だったでしょうか？それとも「免許」だったでしょうか？

さて、同じ「資格」の中でも「国家資格」と「民間資格」の違いについても知っておかなくてはなりません。



クルマやバイクは「免許」だね♪

＜国家資格＞

国家試験に合格することで、国や国が委託した機関から授与される資格

＜民間資格＞

企業や業界団体などが独自に認定し授与する資格。法律などの規定はない。臨床心理士・細胞検査士・住宅診断士・TOEIC・TOEFL など。

(デジタル大辞泉より)

「国家資格」があるということとは？「国」によって資格の制度は違う…ということですね。他の国では、どんな資格があるのでしょうか？また、他国の資格を取得することは可能でしょうか？

例えば、「公認会計士」という国家資格について考えてみます。

公認会計士の資格は、監査業務が行える唯一の国家資格です。

(日本公認会計士協会HPより)

公認会計士とは、日本では「公認会計士法」という法律によって定められている国家資格です。公認会計士は、世界約120ヶ国、およそ250万人いると言われています。企業が公開する財務情報は、投資家だけでなく世界中の人々の目に触れることになります。それらの内容が正しいかどうか？各国の公認会計士が「監査」というチェックを行うことで、その正しさを保証しています。従って、日本の企業であれば日本の国家資格である公認会計士の資格を持った人が、その監査業務を行う…というわけです。

ところで、アメリカの公認会計士試験(= U.S.CPA)は、日本に居ながら取得可能な資格として有名です。東京や大阪には U.S.CPA を目指すスクールも何校もあり、本試験も日本で受験可能です。但しあくまでもアメリカの試験なので、試験問題はすべて英語、もちろん答案も英語です。U.S.CPAの資格を取得すれば、就職や転職の際に「会計と英語の両方が出来る」とか「国際会計を理解している」といった点をアピールすることが出来ます。

国家資格には、どのようなものがあるのでしょうか？

民間資格についても、他にどのようなものがあるのでしょうか？

気になる国の、国家資格を調べてみましょう

米国公認会計士：  
U.S.CPA (United States of  
Certified Public Accountant)

## 資格を取ると、どんないいことがあるのでしょうか？

「資格は、本当に就職に役立つの？」…そんな疑問を持ったとしても？ある意味当然かもしれません。そのような人は、まずは興味のあることまたは、将来の仕事と関係しそうな資格や免許を実際に取ってみてはいかがでしょうか。もし、あなたが今までに資格取得の勉強をしたことがないなら、まずは「カンタンに取得出来そうな資格」からチャレンジするのがお勧めです。

もし、何かの資格を持っている人は、初めて資格を取ったときのことを振り返ってみてください

## キャリアデザインと資格の関係

「キャリア」という言葉自体は、「履歴」や「経歴」だけでなく、「時間的持続性」や「継続性」という意味合いも持っています。

キャリアとは、一般に「経歴」、「経験」、「発展」さらには、「関連した職務の連鎖」等と表現され、時間的持続性ないし継続性を持った概念として捉えられる。

(厚生労働省「キャリア形成を支援する労働市場政策研究会報告書」より)

このことから、資格を取得するということは、その結果である「点」だけを考えるのではなく、その資格取得に至るプロセスや次のステップに向けた持続性や継続性といった「線」で考える必要があります。単に結果の合否だけに一喜一憂するのではなく、その後をどうするか？を常に考えていかなければなりません。

それを考え続けていくためのヒントは、「エンプロイアビリティ」にあるかもしれません。

エンプロイアビリティは、労働市場価値を含んだ就業能力、即ち、労働市場における能力評価、能力開発目標の基準となる実践的な就業能力と捉えることができる。

(厚生労働省「エンプロイアビリティの判断基準等に関する調査研究報告書」より)



大学受験では  
一喜一憂したよね

まずは将来設計を考え、そのための階段を一段ずつ上っていくために「資格」を取得していく…という長期的な視野を持って戦略的に資格取得していくのも大いに「アリ」でしょう。または、「やりたい仕事ではないけれども、将来何かの役に立つかもしれないから」とか、「今、自分に与えられた仕事を精一杯やり遂げる」とか、自分自身の「今」を充実させるために資格を取得する…という考え方もあります。

## 専門職を目指す

弁護士・公認会計士・税理士などは難関資格として知られています。これらは「士業(しぎょう・さむらいぎょう)」と呼ばれており、他にも？弁理士・司法書士・行政書士・社会保険労務士・中小企業診断士・不動産鑑定士・土地家屋調査士・かおく海事代理士かいしだいりしなど、いろいろな資格があります。士業の多くはその資格を持っている人でないと出来ない仕事(＝独占業務)があるので「資格」でありながら「免許」の意味合いが強いかもしれません。

資格を活かした専門職を目指すというのは、「就職するのが嫌だから」という単純なハナシではありません。もちろん士業として独立開業している人も大勢いますが、「社内弁護士」や「社内税理士」のように会社員として働いている人もたくさんいます。中には、定年退職後に独立開業するつもりで？在職中または退職後に資格取得を目指す人もいます。士業を目指す目的は様々で、もちろんチャレンジすることに年齢も関係ありません。

## 資格・免許と学歴の関係

資格や免許の中には、学歴を問うものも少なくありません。例えば「社会保険労務士」という資格は「大卒」が受験資格の基本です。実務経験の要件を満たすとか、「行政書士」などの資格を持っている…などがない限りは受験資格がありません。「税理士試験」でも、仮に中卒や高卒の人が

それぞれの士業がどのような仕事なのかを調べてみましょう

文部科学省HP「学校基本調査」によると、平成28年度の大学短大進学率は56.8%で過去最高だったそうです

時代によって、進学率は大きく違います。20年前や50年前はどうだったのでしょうか？

目指すとなれば、まずは受験資格を得るために「日商簿記1級合格者等」になる必要がある…など、かなりハードルが高いのが現状です。また「教員免許」についても大学で履修すべき「所定の単位数」が決まっているので実質的には「大卒以上」でないと教員にはなれません。学歴条件のある資格や免許の多くはそれが絶対的なものではなくて、「実務経験」や「他の資格取得」などの別要件もあります。しかし、特に若い人にとっては「実務経験」の要件を満たすのは不可能に近く、単に「受験資格」のためだけに別の資格を取得する…のは、大きな回り道になるかもしれません。

みなさんの中には、両親や先生に「とりあえず大学に行きなさい」と言われたことのある人もいるでしょう。その「とりあえず」という言葉の中にはきつとこのような、「選択可能性」という意味が含まれているのではないのでしょうか。



とりあえず…  
だけじゃまずい  
よね

## まとめ

冒頭で「資格を取りさえすれば人生はバラ色…でしょうか？」と問いましたが、いかがでしょうか？資格を取る「だけ」では、人生がバラ色…というのは難しいのかもしれないね。「資格」をどのように活かすのか？その活かし方は、皆さんそれぞれの人生設計や価値観によって異なるものになるはずです。つまり、資格取得を決して「目的」にせず、「手段」として考えるべきではないのでしょうか？

学生時代にどのような資格を取得するのか？なぜ、その資格を取得するのか？…じっくりと考えてみてください。その結果、「私は資格は取らない！」というのもアリです。自分自身で、納得いく結論を出していきましょう。あなたのキャリアは、あなた自身が「創造」していくものなのですから。